

2022 Collection of plywood works

第6回全国合板1枚・作品コンペ報告書

2022 Collection of plywood works

第6回全国合板1枚・作品コンペ報告書

主催

木材・合板博物館
日本合板工業組合連合会
日本合板商業組合

2022 Collection of plywood works

第6回全国合板1枚・作品コンペ報告書

はじめに	2
実施要項	3
作品紹介	5
受賞者一覧	28
総評	29

はじめに

第6回全国合板1枚・作品コンペ実行委員長
埼玉大学 教授

浅田 茂裕

公益財団法人PHOENIX（木材・合板博物館）、日本合板工業組合連合会、日本合板商業組合の3団体の主催により、第6回全国合板1枚・作品コンペを無事開催することができました。本コンペの実行委員を代表して、ご挨拶申し上げます。

このコンペは島根県で始まり、2年ごとに開催してまいりました。残念ながらコロナ感染症の拡大により前回の5回大会から4年の間開催を控えておりましたが、関係者の熱意と努力により、第6回の大会実施に漕ぎつけました。長く開催できなかったこともあり、作品の応募について不安もありましたが、実際の作品はこれまでの大会と変わらず、たくさんのすばらしい作品に出会えました。関係者そして応募いただいた皆様方のご協力の賜物と感謝申し上げます。

このコンペは、合板という、通常は下地材として用いられる材料を、さらに魅力のあるものとして活用する、新たな可能性を見出すという趣旨で行われてきました。特に、森林を活用していこうという時代に、合板という優れた材料を見直して、さまざまに使用すること、創り出すこと、そして主体者として関わることは大きな意味があります。

このコンペでは、我々関係者が毎回思うことですが、全く思いつかないような、沢山のすばらしいアイデアを見ることが出来ます。すぐにでも製品化できそうなもの、将来を感じさせるものなど、審査委員、実行委員一同、非常に楽しみにしています。皆様にも一つ一つの入賞作品をご覧ください、その良さを実感していただきたいと思えます。

これからは森林そしてそこから生み出される資源を活用する時代です。我が国は森林資源に恵まれ、木材を上手に活用する技、そして心、知恵が受け継がれてきました。合板を活用して作品をつくるという小さな営みが、これからの時代を創る若い世代に、そうしたことを伝えられればと思います。今後とも皆様のお知恵をお借りしながら、合板の可能性、あるいは木材の可能性を追求したいと考えております。

この大会を開催できたのは、林野庁をはじめとする多くの協賛団体、後援団体の皆様のおかげであると感謝しております。本当にありがとうございます。このコンペを引き続き継続していくために、皆様のご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

1. 実行委員会

実行委員長

埼玉大学教授 浅田 茂裕

実行委員

島根大学名誉教授 山下 晃功
東京学芸大学教授 大谷 忠
上越教育大学教授 東原 貴志
東京大学准教授 青木 謙治
島根大学教授 細田 智久
ものづくり大学教授 佐々木 昌孝
日本合板工業組合連合会専務理事 (特非) 木づかい子育てネットワーク 上田 浩史
多田 知子

事務局長

木材・合板博物館副館長 平川 泰彦

2. 審査委員会（2次審査）

審査委員長

島根大学教授 細田 智久

審査委員

島根大学名誉教授 山下 晃功
ものづくり大学教授 佐々木 昌孝
「ドゥーパ！」編集長 設楽 敦
埼玉大学教授 石上 城行
パワープレイス株式会社（デザイナー） 奥 ひろ子

第6回全国合板1枚・作品コンペ

実施要項

第6回

全国合板1枚 作品コンペ

<https://www.gouhancompe.jp/>

グランプリ

林野庁長官賞

副賞
賞金 **30** 万円

金賞（島根賞） 10万円
銀賞 5万円
銅賞 3万円
特別賞（木育賞） 商品券5千円+記念品
奨励賞 記念品

※島根賞=合板1枚・作品コンペ発祥の地 島根賞
木育賞=山下晃功 木育賞
※木育賞の対象は高校生以下

応募期間 2022年 8月22日(月)～9月30日(金)
※web応募またはEメールにてご応募ください。

入賞
内定者
作品提出
期間 2022年 10月14日(火)～10月26日(水)
※ご提出していただけない場合は、失格となります。

《主催》

木材・合板博物館
日本合板工業組合連合会
日本合板商業組合

協賛

(一財)田部謝恩財団
(一社)日本木工機械工業会
(公財)日本合板検査会
(株)キャンブ
(dopa 編集部)
(株)日刊木材新聞社

後援

(株)オフ・コーポレーション、海青社、開隆堂出版(株)、
Ton-ton(合板DL教材[Kism]), (公社)全国中学校産業教育教材振興協会、
全日本中学校技術・家庭科研究会、東京書籍(株)、(一社)日本木文化学会、
日本産業技術教育学会木材加工分科会、(公社)日本木材加工技術協会、
(一社)日本木材学会、日本木材青壮年団体連合会、林野庁

事務局

〒136-0082 東京都江東区新木場1-7-22 新木場タワー4F
木材・合板博物館 合板1枚・作品コンペ事務局
E-mail gouhancompe@gmail.com / HP <https://www.gouhancompe.jp/>



第6回 全国合板1枚・作品コンペ

1 開催趣旨

木質面材の代表格「合板」は、炭素固定をして地球温暖化防止に役立つなど、地球に優しく、持続可能な資源である木材を原料にして製造されています。また、合板は、最新の木材加工技術により高い性能と品質を持ち、屋根・壁・床の下地材として私たちの住まいの安全を支えているなど、私たちの生活になくてはならないものです。

そして、今回で6回目を迎えるこのコンペでは、合板の限られた用途以外で発揮される、美しさ、優しさ、面白さ、ユニークさ、繊細さなど多面的な魅力を、みなさんの力によって引き出していただきたいのです。それらの魅力が家具や造形・美術・工芸作品として、いかに表現されているのか、そして「合板一枚」がどのように活用されているのか——。子供も大人も、プロもアマチュアも、参加可能です。合板の新たな可能性とさらなる魅力を引き出す作品を募集します。ぜひ、一緒に合板の可能性を探っていきましょう。

2 審査基準

- 本コンペの趣旨を踏まえ、以下の項目を考慮して審査します。
- ①合板の良さ、美しさ、おもしろさなどが活かされているもの
 - ②合板1枚を有効に利用しているもの
 - ③合板の利用について普及効果があるもの
 - ④合板の新たな用途開拓を見出したもの
 - ⑤合板の強度的特性、物理的特性を活かしたものの

3 応募条件

上記の「審査基準」や下記の「作品規格」に従って、製作したオリジナルで未発表のものであること。著作権および工業所有権を侵害すると判断されたものは除外されます。応募は個人又はグループのいずれでも可能です。

- ◆作品規格
 - ①合板1枚とは、板幅90cm板の長さ180cmの3×6(サブブロック)サイズ1枚の面積のことで、板厚は自由です。使用合板は1枚以下でも構いません。ただし、各種の板厚の合板を組み合わせて使用する場合は、合計の面積が90cm×180cm=16,200cm²になるように使用してください。
 - ②家具金具(丁番、取手、キャッチャーなど)、補強金具、接合金具などは自由に使用できます。
 - ③作品に色を塗ったり、絵を描いたり、彫刻、布貼りなどの表面装飾を行うこともできます。
 - ④特殊な合板を製造して使用する場合は、特殊な規格の合板を使用する場合は事務局にお問い合わせください。
- ◆応募に関する諸注意・権利規程
 - ・応募作品は、応募者自身のオリジナルで国内外未発表のものに限ります。また、入賞作品については主催者の同意なしにほかに公表しないものとします。
 - ・すべての応募作品の特許、実用新案、意匠、商標、著作権に関する全ての権利は、応募者にあります。従って、これを保護する責任は応募者本人にありますので、応募の際は、必要に応じて権利保護等の措置を講じてください。
 - ・応募作品が、既発表のデザインと同一または酷似している場合、あるいは第三者の知的財産権の侵害となる場合は受賞発表後であっても受賞を取り消すことがあります。
 - ・応募の際に発生する送料は、自己負担になります。事務局から作品を配送する際に、保険に加入したい場合は応募者負担になります。また、事前にその旨を事務局に必ずお知らせください。
 - ・一部の入賞内定者には、必ず実物の作品をお送りいただきます。提出された入賞作品については、合板一枚作品コンペ事務局が当コンペを実施する上での広報・宣伝活動において作品や写真などを無償で使用する権利を有します。その際、作品名と製作者氏名(団体名)を公表します。
 - ・入賞内定者が作品提出後、応募作品の管理と輸送については万全の注意を払いますが、天災・その他の不可抗力による事故に基づく破損・紛失については、一切の責任を負いません。
 - ・上位入賞作品については、主催団体および関係団体による展示やイベント会場などでの作品紹介を目的として、寄贈をお願いする場合があります。
 - ・応募者の個人情報は、運営上の連絡、審査結果通知、資料等の発送、関連イベントのお知らせ、統計処理のためにのみ利用します。

事務局

〒136-0082 東京都江東区新木場1-7-22 新木場タワー4F 木材・合板博物館 合板一枚・作品コンペ事務局
ホームページ <https://www.gouhancompe.jp/> E-mail gouhancompe@gmail.com

4 応募方法

応募期間内にwebよりご応募いただくか、メール本文に必要事項をご記入の上、写真と設計図を添付しご応募ください。なお、webよりご応募いただく場合にはgoogleアカウントへのログインが必要です。

また、一部の入賞内定者の方には、作品提出期間中に実物の作品をお送りいただきます。

応募期間：2022年8月22日(月)～2022年9月30日(金)
(応募フォームまたはEメールよりご応募ください。)

入賞内定者作品提出期間：2022年10月14日(火)～2022年10月26日(水) 必着
(実物をお送りください。ご提出いただけない場合は、失格となります)

- ◆web応募
ホームページ(<https://www.gouhancompe.jp/>)内の応募フォームよりご応募ください。
※googleアカウントへのログインが必要です
 - ◆Eメール応募
Eメール本文に氏名(フリガナ)、性別、年齢、所属先/学校名、郵便番号、住所、電話番号、Eメールアドレス、応募履歴(今回が初めて/〇回目の応募)、作品タイトル、作品コンセプト・説明(機能や特徴も)をご記入の上、写真3～4枚(真上、正面、側面)と設計図(寸法がわかるものでスケッチでも可、内部構造があるものはそれについても記載)を添付し、件名を「合板1枚・作品コンペ応募」とし、gouhancompe@gmail.comへお送りください。応募いただいた場合は、応募に関する諸注意・権利規程に同意したものとみなします。
- 入賞内定者の方は、各自ダンボール箱などで梱包し、期日までに事務局まで送付していただきます。作品送付後、送付した旨を事務局までご連絡ください。その際に作品の返送先住所、氏名、電話番号をご明記ください。なお、送料は応募者負担となります。

5 結果発表

入賞内定者通知：2022年10月13日(木)
Eメールにて通知いたします。

結果発表：2022年11月30日(水)
ホームページ(<https://www.gouhancompe.jp/>)上で発表します。
また、合板の日記念式典にて入賞作品紹介を行います。

6 賞・副賞

グランプリ(林野庁長官賞)	副賞：賞金 30万円	1件
金賞(島根賞)	副賞：賞金 10万円	1件
銀賞	副賞：賞金 5万円	2件
銅賞	副賞：賞金 3万円	6件
特別賞(木育賞)	副賞：商品券 5千円+記念品	9件
奨励賞	副賞：記念品	19件

※島根賞 = 合板1枚・作品コンペ発祥の地 島根賞
木育賞 = 山下晃功 木育賞
※木育賞の対象は高校生以下
※高校生(高専3年生以下を含む)以下が受賞した場合、賞金は現金ではなく同額の商品券を贈呈します。

7 入賞作品展示

日時：2022年12月2日(金)～2022年12月21日(水)
場所：木材・合板博物館(東京・新木場)

2022 Collection of plywood works

第6回全国合板1枚・作品コンペの
入賞38作品を紹介します

Supita

壹ツ石 涼里

一休みのためのハイスツール「Supita」。

Supita は、工具や接着剤を使わず、木材のみで誰でも簡単に組み立てられる設計になっている。3 × 6 版の板材一枚から3脚作ることができ、厚さ15mm の合板であれば応用が可能である。合板の強度と平滑性。そして、一度に平積みして搬送できる物流特性を活かしたハイスツールである。細身のボディは、ピタッと重ねてコンパクトな収納を可能にする。キッチンカーに積み込めば、出先での飲食のポップアップイベントでも活躍する。スッと腰掛け、すぐに歩き出せるような高さになっており、コーヒータイムなど忙しい日常の隙間にひと息つく時間を提供する。



受賞のよこび

Supitaは、合板のもつ強度と平滑性。そして、一度に平積みして搬送できる物流特性など、合板だからこそできる良さを生かせるよう考えて作製しました。

パズルのように、パーツを組み合わせて家具が作れる楽しさや、工具なしに組み立てられる手軽さなど、作品を通して素材である合板の魅力がより伝わるようになっていたらと思います。

合板一枚・作品コンペを通して、作製した作品が多くの人の目に留まる機会となり、とても嬉しく思います。ありがとうございました。

審査委員からのコメント

3×6の板材一枚から効率的に取れるパーツ形状、各パーツを工具を使わずに組み上げられる構成、搬送や収納性、利用シーンにも配慮されており、様々な観点からの工夫がある秀逸な作品です。

アール形状や塗装色をポイントにしたデザインは合板の固い印象を払拭し、完成度が高いです。

おやこのじかん

裏崎 ほの香



この作品は、大人用の椅子と子ども用の椅子がくっついた二人掛けの椅子となっている。大人用と子ども用の背板がくっついているところが、二人が少し内側に向くように角度が付いている。また、くつろげるように背板と座板の間にも少し角度が付いている。

大人用と子ども用の背板がくっついているところには、親子が強い絆でつながっていることをイメージして、「ちぎり」を入れた。この作品ではあえて抜け節のある面を表面に採用し、抜け節を、色を付けたウッドパテで埋めた。こうすることで、合板の特徴をより引き立たせ、かつポップな作品に仕上げることができた。

受賞のよろこび

この度はこのような素晴らしい賞をいただき、本当にありがとうございます。コンペに作品を出すのは初めての体験だったため、金賞をいただけた驚きと嬉しさでいっぱいです。

この作品は私の幼い頃の思い出をもとにして制作しました。私は両親とその日の出来事を話したり読み聞かせしてもらったりすることが好きでした。そのため親子の絆がより深まる物を作りたいと思い、この作品ができました。この椅子を使って多くの人に笑顔になっていただけたら嬉しいです。

審査委員からのコメント

親子で座る二人掛けベンチというコンセプト、近年提唱され合板と自作木工への活用が期待されている合板DL(ごうはんディーエル)という考え方を取り入れている点、その一方で、座面と背もたれには曲線挽きした合板を使うなど、考案者の創意工夫がふんだんに読み取れる作品です。親子で製作して楽しむこともでき、完成したら、親子で斜(はず)に向かい合って仲良く腰掛けられる、そんな素敵なベンチに仕上がっていると思います。

カラーバスケット

山口 桃果



これは、ペットボトルのラベルやキャップなどの小さなごみを種類だけでなく、色で分別するリサイクルバスケットです。

私たちの生活に潜む色と素材を集めます。「実のなる木」をイメージしました。十角形を積み重ねて、樹皮の凹凸を表現しました。また、横に展開することで、小さなかご(枝)になり、多様な色(実)を集められます。

受賞のよろこび

今回私の作品が銀賞に選ばれ、とても嬉しいです。私は部活動で木材加工をしてきたので、木材の知識から合板の特徴を最大限に生かした、合板にしか出来ないデザインを作りたいと思っていました。このリサイクルボックスは、合板の面の強さを生かし、私のコンセプトにある「展開」してさらに細かく分別出来るものになったと思います。そして、合板の持つ木目と積層の2つの面を魅せたかったので、側面の合板木口にニスを塗り、目立つようなデザインにしました。しかし、このリサイクルボックスを使うとなると、袋が取り付けにくいなど、実用性の課題が残っていると思います。さいごに、合板1枚作品コンペに取り組んでみて、合板という建築材料の用途の可能性を広げるきっかけになり、それを合板1枚で表現する難しさもあって、とても楽しかったです。

審査委員からのコメント

中央に穴が空いた十角形を縦に組み合わせることで、角度の違いによる明暗の違いによって合板の積層面が持つ豊かな表情を浮き上がらせた素晴らしい作品です。十角形は1つの心棒で連結され、水平方向に自由に回転でき、そこに透明ビニール袋を引っ掛けて小物やゴミなどを入れることで彩りが生まれる仕掛けです。自由に動かせることで少し動かせば毎回違った表情が生まれ、オブジェ・芸術品としても優れた作品と言えます。

時を刻むひまわり <Sunflower marking time>

原田 知美



30cmの正方形の合板を2枚重ね(厚さ1.2×2枚)、彫刻刀で中心から円を描くように段々と深さを変えて彫りました。深さを変えることで合板の断層ごとの板の色が楽しめます。また、彫刻刀で荒削りすることでひまわりの花のような表現ができました。そして、それを時計にすることで、時を刻むと彫刻刀で刻む・時を重ねると合板は板を重ねる、を掛けました。

受賞のよろこび

この度は、銀賞という素晴らしい賞を頂戴し、誠にありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

いわゆる木工作品とは少し違う作品でしたので、このような賞をいただけるとは夢にも思いませんでした。大変光栄です。

作品に使用した合板は、わりと硬い素材だったため、電動彫刻刀で彫る時に力を入れすぎて、指にマメができました。

今ではマメができるほど一生懸命に作品作りをしたことを誇りに思います。

作品づくりにチャレンジしたからこそ、合板にはまだまだ用途があるのではないかと思います。インスピレーションを大切にまた何か作ってみたいです。そして、今後『合板』がますます馴染みの深いものになり、一般の人にも広く普及されることを心より願っています。ありがとうございました。

審査委員からのコメント

樹種・色合いの異なる木材が積層された合板の魅力を上手に引き出した素晴らしい作品です。彫刻刀による削り跡がはっきりと現れることで、中心からの放射性や素材の持つ柔らかさが強調されています。タイトル「時を刻むひまわり」と作品とがぴったりと合致し、見る人の心を爽やかな気持ちにさせてくれます。作品タイトルや子猫のレタリングも丁寧に刻まれており、製作者の方の高い表現力と緻密な感覚が感じられる作品です。

進むイス

田中 佑



合板を使って椅子を作りました。初めて椅子を作ってみました。座ることができる強度を考えたり、扉が開いて中が収納スペースになるように考えたりしながら作るのが楽しかったです。裏にキャスターをつけて、座ったままで移動できるように工夫しました。

受賞のよろこび

今回作った「進むイス」は、かなり時間がかかったのですが、しっかりしたもののできたので良かったです。

僕が椅子を作ろうと思ったきっかけは、学校の技術部で使う物を置く棚が欲しいと思ったことと、必要な道具をいっぺんに運びたいなと思ったことで、キャスターをつけた収納ができる椅子にしようと考えました。

作るときにとにかく意識したのがバランスと強度です。もともと作った一号機(進むイスは二号機)は座った瞬間に崩れてしまったので、ちゃんと座れていかに合板を少なくできるかに気をつけました。完成して座る時には、まず水筒、次にカバン、その次に友達、最後に僕とヒヤヒヤしながら乗って確かめました。物を引っ掛けられる工夫は、重量の面で壊れないように考えました。

一番大変だったのが、座り心地を良くするために二時間くらいやすりがけをしたことです。何はともあれ、友達も使ってくれる椅子を作れ、入賞できて、本当に嬉しいです。

審査委員からのコメント

シンプルで一目、武骨な印象を与えるたずまいのイスですが、前面の扉を開くと格子状に組まれた座面の隙間から光が降り注いでいて、合板の木目と響きあう美しいコントラストを作り出しています。

内部の収納スペースはもとより、側面や扉にも工夫が凝らされていて機能と強度、デザイン性がバランスよく整っている点が高く評価されました。

このイスを使ってこれから何を作るのか、夢が膨らむ作品となっています。

左右のフレームを「相欠き継ぎ」で繋ぎ、座面から背もたれ部分は合板に切り込みを入れて曲げています。合板を曲げて「流れる」ような曲線を取り入れ、優しく、柔らかい雰囲気のある作品を目指しました。



受賞のよろこび

木に切り込みを入れて曲げる加工から着想を得て制作しました。合板を曲げる為の切り込みの深さや間隔の調整や曲げる作業で割れないように注意しながらの作業は大変でした。

作品に曲線を取り入れることで「木のぬくもり」を感じられるデザインしました。フレームにはラワン合板、座面にはシナ合板を使用しています。合板そのものの色が活かされるように工夫しました。

顧問の先生にアドバイスをもらい、試行錯誤しながら作品することができました。

自分自身で設計した作品がはじめて受賞することができて、本当に嬉しいです。

審査委員からのコメント

本作の魅力は、背もたれから座面、脚部(前面)を1枚の板をまげて作成することによって現れる曲線と、シルエットを左右非対称にカットした点が相まって、液体が流れる様子を美しく表現したところにあります。側面に開けられた穴もランダムな形状となっていて気泡を連想させます。

これら造形的な工夫とタイトルが絶妙なバランスを醸し出しながら安定感をもって結実している点を高く評価し、銅賞としました。



金具を一切使用せず、60度に開閉できる折りたたみ機構を設計し、合板のもつ強さや積層面の綺麗さを活かした作品を作りました。

受賞のよろこび

金具を使わずに、折りたたみの機構を作れないか。これが発想の起源でした。そして、入手・加工のしやすい木材の中でも、強度異方性という木材の欠点を解消した合板が素材としてマッチすることにたどり着き、製作を始めていきました。

特に大変なのは設計の段階でしたが、今回はPCを用いた3DCADを利用して、角度を根拠にした長さの計算や、各部材の組み合わせをシミュレーションしました。

完成までに何度か試作を重ね、最終的には60度の角度で開く折りたたみ機構を実現させました。L字型の断面をもつ脚の部材の工夫により、展開した時に部材同士が支え合うように組み合わせることで、使用時の強度向上を図ることができました。

今後は、この機構を応用してテーブルやスタンドなどを製作していきたいと思っています。

審査委員からのコメント

合板の強度を活かした折りたたみの機構や積層面を活かした座面の貼り合わせも、合板の特性を良く理解されたシンプルなツールに仕上がっています。

折りたたんだ状態でのコンパクトさ、軽さも魅力です。

練習NG合板サッカーボール

大谷 俊行

無垢材で作るサッカーボールはたまに見かけるが合板でサッカーボールを作ると研磨後に単板積層面の面白い模様が出るのではないかと予想した。予想は的中し、組み立て時は多面体（6角形）（5角形）の接合で一辺が均等に形成されるが球体形成は面まで削っていくので積層面のラインが丸く模様として出た。



受賞のよろこび

この度は銅賞をありがとうございます。私は家具屋で日頃からいろいろな材料に触れながら物作りをしています。2022年夏より小学5年の次男がサッカー教室に入り、日々汗水たらし頑張っているのを父として応援したい気持ちと、FIFAサッカーワールドカップカタール大会2022が重なり、合板でサッカーボールを作って次男に見せたらより興味を持って練習にも打ち込めるのではないかと思い立ちこの製作を決めました。ボールは多面体の組み合わせでボンド接合のみです。また合板の厚みが12mmなため、球体にする作業がとても大変でした。どこまで削ってもいいものか感覚で進むしかない状況もありました。多面体の組み立て時は合板の表面のみが面として見えますが研磨をして球体に近づくと断面積層面が模様のように円形状に現れます。これもまた味わい深く合板材料ならではの模様だと思います。日本は森林資源も木材加工技術も豊かです。エンドユーザーに届ける製作者としてこの誇りを胸に、お客様には合板の真の良さも伝えていながら、これからも精進していきたいと思っています。

審査委員からのコメント

5角形と6角形の合板パーツで隙間のない極多面体の接着組立は、驚くべき木工技術の精密さにブラボー。さらに極多面体の角張った出っ張りの角削りで球体仕上げ。球形のサッカーボールに見事に変身。接着接合した5角形と6角形の合板パーツの表面に美しい円が。さらに3つのパーツの接着接合面の間に小さな三角形。サッカーボールの球体の表面に円と小さな三角形の見事なコントラスト。合板サッカーボールの発想に再度、ブラボー。

キューブ型立体パズル

長谷川 聡



今回ご紹介するパズルは、話の流れを基にして学校の机の天板を使用しておりますが、普通のどんな合板でも作成することができます。貼り合わせやカットがしやすく、希望サイズに整えることが容易なのも、合板の特性の一つかもしれません。パズルは8つのキューブから成り立っています。完成サイズは、90mm×90mmとなります。

受賞のよろこび

元々合板は、地球に優しく持続可能な資源である木材を原料にして製造されています。しかし、どんな合板でも、使用不能と判断され廃棄となるものもあります。このように、様々な理由で使用目的から外れた合板を、より長く愛されるものにできないかという思いを元に、今回は学校で廃棄された机の天板を使用しました。

そして、このような使用済み製品や生産工程などから出る不要部分などを回収し、利用しやすいように処理して、新しい製品の材料もしくは原料として使用する「マテリアルリサイクル」を可能にするため、この思いにデザイン力を掛け合わせました。

これは、SDGsの目標12「つくる責任、つかう責任」のターゲット5としても掲げられている、「廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により廃棄物の発生を大幅に削減する」にも該当します。

このキューブ型パズルによって、合板がさらに持続可能な素材であることを世の中に発信できれば幸いです。

審査委員からのコメント

キューブ型パズルといえば、立方体ケースをピースで埋めるホフマンキューブ、小さな立方体を組み合わせたパーツから六面体を作る木組みパズルのソーマキューブやシュタインハウスキューブといったものがよく知られていますが、本作品は、キューブとピンを使った木組みパズルとして、とても面白い仕上がりになっていると思います。ピンを差し込む穴を精度良く斜めに穿孔する加工にも、考案者の熱意が感じられる作品です。

ウェーブチェア

中西 要成

コンクリートパネルは、安価で耐水性が高く丈夫で適度な弾性があります。
この力を利用して接着剤や補助金具を使わなくても簡単に組み立て分解可能な椅子を制作しました。



受賞のよろこび

『ウェーブチェア』は、腰掛けた時、ゆったりと体を包み込んでくれる様なイメージで設計しました。コンパネをジグソーで切り出し、仮組みした処、思ったよりもコンパネの弾力が強く、曲げ部分が割れたりして予定通りの形に組み上げることができませんでした。

そこで、背板と前脚後脚の接続部分の幅や前脚補助脚の形を変更したことでイメージ通りの椅子を作ることができました。合板で作成した椅子は、温かみのある風合いで、気持ちの良い座り心地です。接合部分は、柄接ぎ、蟻形接ぎ、相欠き接ぎ等ですので、簡単に組み立て、分解ができ収納、移動にも便利です。

これからも自分なりに努力をして合板の魅力を発見したいと思っています。

審査委員からのコメント

まさに「合板1枚」というコンセプトにぴったりの作品。3×6サイズのコンクリートパネルを素材に選び、その弾性を利用して、型抜きのように椅子の部材を切り出すアイデアはお見事。ウェーブチェアのタイトルのとおり、曲線を多用してデザインになんとも不思議なやわらかさを生んでいるところも面白い。2Dの合板がそのまま3Dになったようなユニークさがポイントだと思う。

雲の中のめいろ

浜田 朔斗



雲の中にあるようなめいろを表現しました。
橋やトンネルを作って綿で雲の中を通るビー玉が見えなくなるのが特徴です。

エイゴ

熊谷 大翔



最初は伊藤修二先生と一緒に合板のブロックでつくりはじめました。名前は「エイゴ」です。なぜ名前が「エイゴ」かという「ひろと」の「H」が顔になっているからです。手の形はテナガザルみたいにしました。手が長いので、ストレッチのポーズができます。逆立ちもできます。足の関節が二重にしてあるのでめちゃくちゃポーズが自然にできるところが特徴です。

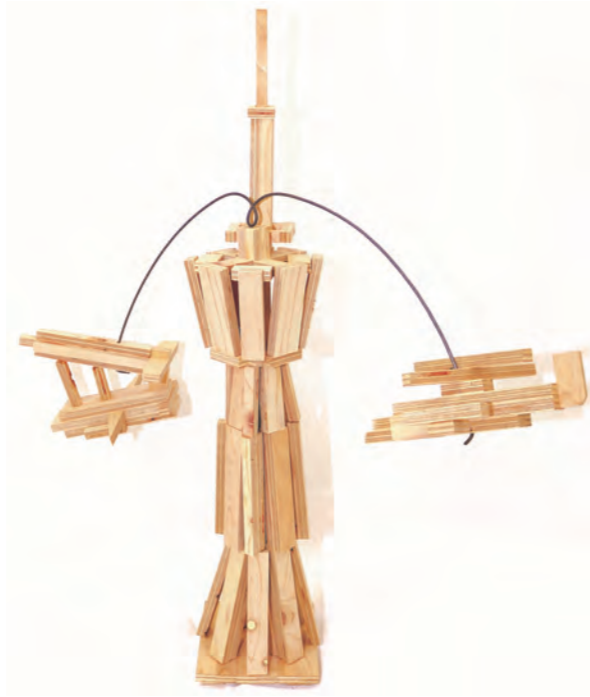
2022
Collection
of plywood
works

特別賞(山下晃功 木育賞)

合板ツリー

宮原 梁旗

合板を使ってスカイツリーを真似て作ってみました。
ヤジロベエの形で飛行機とヘリコプターも飛ばして動きがあるように工夫しました。



2022
Collection
of plywood
works

特別賞(山下晃功 木育賞)

本だなとしても使っているDVD&CDケース

崎山 樹

DVDが床に散らかっているのを、DVDを収納する棚が必要だと思った。

- (1)DVDが収納できること
- (2)DVDを入れても壊れないこと
- (3)L材を2つ使ってより強度を増している
- (4)DVDが入りやすいように入る面を平にして入りやすいようになっている
- (5)DVDの上部が棚からできるようにしてよりDVDが取り出しやすいようになっている
- (6)DVDをたくさん入れることもでき、丈夫なので壊れにくい。壊れにくい設計であるため、買い換える必要もない。
- (7)本も収納することができる



2022
Collection
of plywood
works

特別賞(山下晃功 木育賞)

合板世界の一角

林 克祐



合板を使って栈橋と船を作り、合板の世界を創り出してみました。
船の加工をするのが難しかったですが、合板の積層が綺麗に見えてよかったです。

2022
Collection
of plywood
works

特別賞(山下晃功 木育賞)

木々(もくもく)と作業できる台

角田 和紀



本や教科書を読むときに、角度がなく疲れ
たり、パソコンを長時間使用していると、
姿勢が悪くなり疲れたりするので、角度が
ついている読書・パソコン用の台(書見台)
が必要だと思った。

特別賞 (山下晃功 木育賞)

重要3教科ファイルケース棚

原 彩子

父親が仕事の関係で、合板DL材でよく作品を製作していた。見ているととても簡単そうで、自分でもできそうだったので、製作してみた。

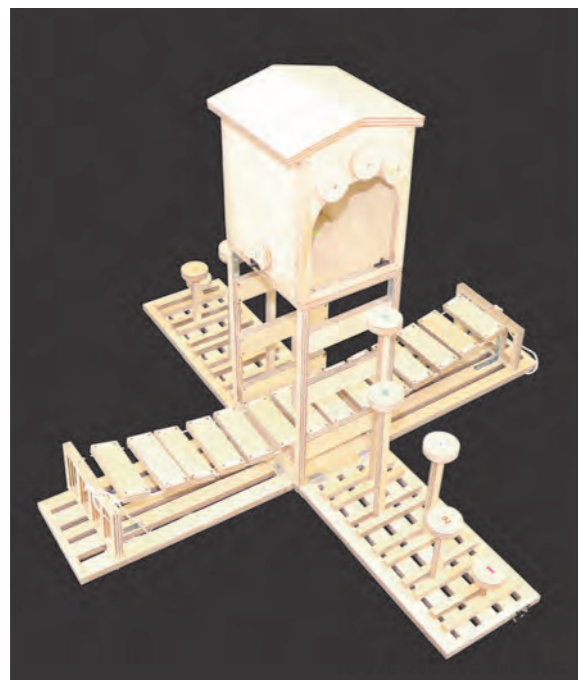
学校で国・数・英のプリントが毎日のように出され、課題を行っている。中でも重要なプリント等をケースに入れて、すぐ手に届くところに置きたいと思った。サイドデスクの大きさとプリント等を入れるカゴの大きさを考慮して、設計を行った。



特別賞 (山下晃功 木育賞)

コンパクトキャットタワー

榎田 涼寿



この作品はキャットタワーだけど、折り畳みが可能なキャットタワーです。移動させる時に、遊具は取り外して中に収納することが可能で、本体はコンパクトに折りたたむことができるので、スマートな状態で、持ち運びをすることができます。

特別賞 (山下晃功 木育賞)

MeMoSaBo

山本 愛梓 / 澤 菜津美



チョークでメモのできるサボテン。部屋のインテリアにもなり機能性と実用性を持ち合わせています。サボテンの1つ1つに黒板塗装を施し、それぞれが取り外せます。全部で大小合わせて6枚のメモ板。ゆれても落ちないように磁石で固定できます。

さらに裏面は12か所の磁石で写真やメモ紙などをピンどめできるようにもなっています。

家族で、職場で・・・さまざまな場所でメモを通じて円滑なコミュニケーションが図れます。サボテンの形はいろいろあり、さまざまなバリエーションが考えられるところも魅力の1つです。

奨励賞

ぼっちdeテント～私と壁とカーテンと～

上原 侑子 / 岩本 和磨

コロナ禍も落ち着いてきた中ではあるが、社会はコロナの影響を受けて大きく変わってきた。一人でいることも簡単ではない、家にいても家族がいるから一人ではいられないし、一人でいる人が多いのでそのためのスペースも埋まっていたなかなか一人でいることができない。

このテントは壁があればいつでもどこでも、一人でいることができる。壁に対して立てかけて設置し、カーテンのように半円に広げることで簡易的なテントになる。



奨励賞

こちよい

田中 芽生



1人掛けの椅子を作成しました。
コンセプトは「こちのよい座り心地」です。
心地よさを追求するため、背面座面に曲線を持たせ
身体に沿うような形を目指しました。主にリラックス
しつつも集中する場面（読書等）に向いています。

奨励賞

作業とくつろぎを両立させた座椅子

鈴木 友萌栄



常に座って働いている馬車の御者は、大きな休憩所
につかない限り操縦席で座ったまま休憩をとります。
この「座りながらも動きがある」ということをイメー
ジしたデザインにしました。座面を背面に、背面を座
面に、90°押し倒すことでくつろぎと作業の二つの機
能を持った座椅子を完成させました。

奨励賞

バイクドケーキスタンド

野村 花音 / 恵谷 林太郎 / 党 尹鈴



コンセプトは、「合板は身近に存在することを思い出
すきっかけ」です。
ケーキスタンドを作成した理由は、昨年度からアフタ
ヌーンティーが幅広い世代で流行しており、普及効果
があると考えたからです。
木製のケーキスタンドは既に多くの種類が存在してい
ますが、合板で作ることでの良さは、異質がないので
食べ物を乗せるには厚さが薄くても十分な強度であるた
め、フレームデザインに曲線を入れることができます。
レーザー加工機で焼いて製作したので、タイトルをバ
イクドケーキスタンドとしました。

奨励賞

犬のご飯台

松本 考央

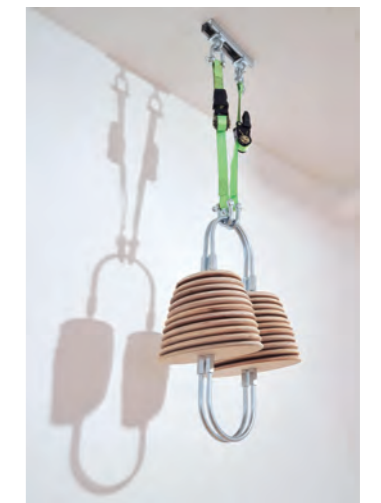


犬のご飯台。
二組の足を台から取り外して取り付け方を
変えることで、犬の体格に合わせて高さを5cm,
20cm,30cmに調整可能。犬の成長に合わせて
高さを変えることができます。

奨励賞

Breathing Wood Lungs

福田 ひろあき



人間と木材に共通する「呼吸」や「循環」をテー
マに「肺」をイメージして作られたアート作品です。
木材は呼吸することで成長します。人間も呼吸をす
ることで生活をします。合板の重要な存在を「肺」
に見立てました。素材の美しさにも注目しました。
一定間隔で配置されている合板同士の間で反射光
ができるため、木目や、積層されている様子などが
よくわかり、合板の持つ本来の美しさが際立ちます。

奨励賞

FO-READ

鈴木 夏織

コンセプト
自分がよくする座る行為を「より読書しやすく」
を目的にその時の座りたいかたちに変える

説明

床に足を伸ばして読みたい時の背もたれやちょっ
と読みたい時のスツールや椅子を持ち上げることで
丸材の可動部が自動で動き、背もたれのある椅子に
なることで時間をとって読みたい時に適したかたち
になる。



奨励賞

積層いす

高藪 弘行



この「積層いす」ではこの合板の特徴を生かすためにサブロク板から材料を切り出した際に端材が小さくなるように設計した。このいすの最大の特徴は端材が少ないにもかかわらず、なだらかな立体を構成することができる点である。積層を水平方向、鉛直方向へ少しずつずらすことによっていすの曲げに対して剛性を持たせている。

奨励賞

こどもの椅子

稲井 瑞



就学児を対象として、小学校と幼稚園との生活のギャップを埋める教材としての役割を期待し制作しました。そのため、実際に小学校低学年で使用されている椅子の規格を参考に寸法を定めました。設計する中で、こどもたちが扱いやすいように軽量化・高強度を目指し、資料材料には合板を選定しました。また、DL材(規格材)で構成することによってシンプルな構成となり、素人でも作りやすさも兼ね備えている。

奨励賞

成長に寄り添う机

山本 天音 / 温 琳琳



小学校に上がった一年生は机で勉強することに慣れていません。そこで小学校にあがる子どもたちに机に慣れてもらうため、幼稚園・保育園の子どもたちが使用することができる机を作成しました。既製品ではなかなか販売されていない、子どもたちが使いやすい絶妙な寸法かつ、小学校で使用する机の形に近いものにしました。

奨励賞

棚々

岩穴口 颯音

形は彫刻作品のように観賞の対象としても美しくなるように、うねりながら棚としての天板を作り出し、様々な大きさのものを置けるように、奥行き・高さ・幅に差のあるエリアを作り、一つの棚とした。ものが置かれると、色々なものが聞き合いながらも、持ち主の個性を受け入れ、生き生きとした棚となる。

様々な棚の機能が集合していて、かつ、様々なものが混在する場「棚々」である。



奨励賞

Base Chair

伊藤 溪又

下地材として使用されている合板は、意匠性は少ない素材です。しかしながら積層した木材の断面は他の材料にない特徴があります。断面の角度、削り方によって表情の変化があることに魅力を感じました。身近で使われる材料だからこそ長く使いこんで経年変化を楽しめる椅子を作りました。



奨励賞

ウォッチマン

堀部 浩之

下地材で使用される合板をいかに高級品とコラボ出来るよう見せる。



2022
Collection
of plywood
works

奨励賞

Picnic Set for Charipic @Miura

日高 仁



アウトドアの分野に合板を用いることにより合板の普及に寄与することを目指したデザイン。
箱を展開すると、蓋がテーブルとなり、残りがアルコールバーナー2口を備えたミニキッチンとなる。必要最小限の様々な調理道具を収めており、ホットサンド、カフェオレ、各種スープやご飯、おつまみなどを調理することができる。使用している合板の厚みは主に4mmである。ほぞを組み合わせて箱状に組み合わせることで薄い合板でも強度を確保し、軽量化も実現した。

2022
Collection
of plywood
works

奨励賞

ツリーハンガー

小栗 聡

北海道のトドマツの素朴で力強く、自然な感じであることをイメージ。
最低必要な機能だけを有し、シンプルな意匠性は少し上質な空間に合わせたデザイン。



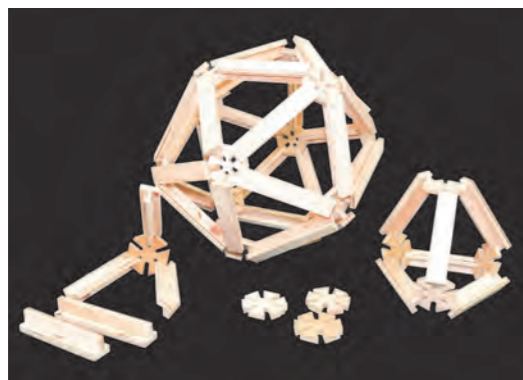
2022
Collection
of plywood
works

奨励賞

Gブロック STRUCTURE(FRAME&JOINT)

～未来の木星探査をする子どもたちのための合板積み木～

伊藤 修二



「G」は、合板の「G」、グラビティーの「G」。「合板DLモジュール木工」の工法から構想した積み木。1×2と1×3等のDL材を様々な断面形状でキューブ状に成形している。伝統的なほぞ接合を合板DLの組み合わせによって簡便に再現していて、ロボットや恐竜、動物などの関節部分の動きを表現することができる。
別の作品「Gブロック STRUCTURE」と組み合わせて宇宙探査ごっこをすることができる積み木である。

2022
Collection
of plywood
works

奨励賞

偉人

糸のこキヤット



偉人たちの顔を糸のこ盤で切りました。
着色した合板と重ね合わせることで陰影を付けました。

2022
Collection
of plywood
works

奨励賞

おうちカフェ

内山 一郎

部屋の片隅に置いて、ホッと一息つける温かみのあるデザインと実用に耐える強度を兼ね備えた椅子とテーブル。見て使って楽しむことができる。針葉樹24ミリ厚の板を使うことで、丈夫さを確保するだけでなく、丸を基調としたデザインにより合板特有の積層の美しさや木目の面白さを表現した。座面・天板と脚、脚間のぬきは、ダボ接合をしている。また、木材の色や手触りが楽しめるよう、オイル塗装にて仕上げている。



2022
Collection
of plywood
works

奨励賞

相欠き風組み立て式スツール

原 智



釣りやその他レジャーなどに持って行けるスツールとして、組立式スツールを考えた。
1脚自動車に載せておけば便利であると考えた。

各賞受賞者一覧 (敬称略)

賞名	作品名	応募者名	分類	製作地
グランプリ (林野庁長官賞)	Supita	壹ツ石 涼里	一般	秋田県
金賞 (合板1枚・作品コンペ発祥の地 島根賞)	おやこのじかん	裏崎 ほの香	一般	島根県
銀賞	カラーバスケット	山口 桃果	高校生	福岡県
銀賞	時を刻むひまわり (Sunflower marking time)	原田 知美	一般	埼玉県
銅賞	進むイス	田中 佑	中学生	山口県
銅賞	流	丸山 博繁	高校生	沖縄県
銅賞	合板フォールディングスツール	徳光 慧 遠藤 能範	一般	山口県
銅賞	練習NG合板サッカーボール	大谷 俊行	一般	島根県
銅賞	キューブ型立体パズル	長谷川 聡	一般	神奈川県
銅賞	ウエーブチェア	中西 要成	一般	北海道
特別賞 (山下晃功 木育賞)	雲の中のめいろ	浜田 朔斗	小学生	東京都
特別賞 (山下晃功 木育賞)	エイゴ	熊谷 大翔	小学生	島根県
特別賞 (山下晃功 木育賞)	合板ツリー	宮原 梁旗	中学生	山口県
特別賞 (山下晃功 木育賞)	合板世界の一角	林 克祐	中学生	山口県
特別賞 (山下晃功 木育賞)	本だなとしても使っているDVD&CDケース	崎山 樹	中学生	島根県
特別賞 (山下晃功 木育賞)	木々(もくもく)と作業できる台	角田 和紀	中学生	島根県
特別賞 (山下晃功 木育賞)	重要3教科ファイルケース棚	原 彩子	高校生	島根県
特別賞 (山下晃功 木育賞)	コンパクトキャットタワー	榎田 涼寿	高校生	福岡県
特別賞 (山下晃功 木育賞)	MeMoSaBo	山本 愛梓 澤 菜津美	高校生	大阪府
奨励賞	ぼっちdeテント～私と壁とカーテンと～	上原 侑子 岩本 和磨	一般	香川県
奨励賞	ここちよい	田中 芽生	一般	東京都
奨励賞	作業とくつろぎを両立させた座椅子	鈴木 友萌栄	一般	東京都
奨励賞	バイクドケーキスタンド	野村 花音 恵谷 林太郎 党 尹鈴	一般	広島県
奨励賞	犬のご飯台	松本 考央	一般	埼玉県
奨励賞	Breathing Wood Lungs	福田 ひろあき	一般	千葉県
奨励賞	FO-READ	鈴木 夏織	一般	東京都
奨励賞	積層いす	高薮 弘行	一般	東京都
奨励賞	こどもの椅子	稻井 瑞	一般	島根県
奨励賞	成長に寄り添う机	山本 天音 温 琳琳	一般	島根県

賞名	作品名	応募者名	分類	製作地
奨励賞	棚々	岩穴口 颯音	一般	東京都
奨励賞	Base Chair	伊藤 溪又	一般	愛知県
奨励賞	ウォッチマン	堀部 浩之	一般	岐阜県
奨励賞	Picnic Set for Charipic @Miura	日高 仁	一般	神奈川県
奨励賞	ツリーハンガー	小栗 聡	一般	愛知県
奨励賞	Gブロック STRUCTURE (FRAME&JOINT) ～未来の木星探査をする子どもたちのための 合板積み木～	伊藤 修二	一般	島根県
奨励賞	偉人	糸のこキャット	一般	愛知県
奨励賞	おうちカフェ	内山 一郎	一般	静岡県
奨励賞	相欠き風組み立て式スツール	原 智	一般	島根県

第6回全国合板1枚・作品コンペ

総評

審査委員長
島根大学 教授
細田 智久

新型コロナ対策下の最中にもかかわらず、多くの作品をご応募いただき大変ありがとうございました。今回の「全国合板1枚・作品コンペ」は、1次・書類審査、2次・現物審査の2段階の審査によって入賞38作品を決定しました。現物審査は「木材・合板博物館(東京都江東区新木場)」の多目的ホール内に作品を展示し、審査員一同で1作品ずつ確認及び意見交換を行いながら実施しました。審査の結果、グランプリ(林野庁長官賞)1点、金賞(合板1枚・作品コンペ発祥の地 島根賞)1点、銀賞2点、銅賞6点、特別賞(山下晃功 木育賞:高校生以下を対象)9点、奨励賞19点を決定しました。

小学生から高校生、さらに大学生を含む一般の方まで、幅広い年代の方が製作された多様な作品が集まり、合板が持つ多面的な魅力を感じることができました。特にグランプリ作品「Supita」や金賞作品「おやこのじかん」は、これら作品が使われる場面や周囲の空間の様子、使っている人々の関係性や表情が、作品を見ただけで自然と思ひ浮かぶ素晴らしい作品でした。

受賞38作品は、合板が持つ「反りなども少なく安定し、十分に乾燥し軽く、加工し易い」「板面と積層面の表情が異なる」といった特性を上手く活かした製作が行われていました。木材は切断しただけでは断面がささくれており、これを優しい手触りに加工し、角は丸くするといった細やかな気遣いが必要になりますが、いずれの作品もこうした仕上げ加工が見事に行われていました。これに加えて、実用性や使い勝手はもちろん、使用する人々の気持ちを明るくしたり感情を揺り動かしたりするような魅力を持った作品が上位入賞を果たしました。

本コンペの実施内容及び受賞作品の魅力が広く伝わることによって、人々の生活・学び・仕事のそれぞれの空間や場面に、合板を含めた木材の魅力が取り入れられ、豊かな空間づくりと豊かな森林環境の実現、さらにはCO₂削減を通じた地球環境の持続的な維持につながることを祈っています。

第6回全国合板1枚・作品コンペを応援してくださった皆様

協賛

(一財)田部謝恩財団
(一社)日本木工機械工業会
(公財)日本合板検査会
(株)キャンプ(dopa 編集部)
(株)日刊木材新聞社

後援

林野庁
(公社)日本木材加工技術協会
(一社)日本木材学会
(一社)日本木文化学会
日本木材青壮年団体連合会
(公社)全国中学校産業教育教材振興協会
全日本中学校技術・家庭科研究会
日本産業技術教育学会木材加工分科会
(株)オフ・コーポレーション
海青社
開隆堂出版(株)
東京書籍(株)
Ton-ton(合板DL教材「Kism」)

第6回全国合板1枚・作品コンペ報告書

2023年2月発行

編集・発行人
合板1枚・作品コンペ 実行委員会
